第９２回 長崎大学ＦＤ実施報告書

長崎大学 FD・SD「スプリングワークショップ」

【趣　旨】
　長崎大学の学士課程教育の充実に向けて，学生主体の学習形態（アクティブラーニング）を様々に工夫していくことが求められています。このスプリングワークショップでは，①全学モジュール科目でのアクティブラーニングの事例報告，②クリッカーの活用法，③グループワークを充実させるコツ，の３つのプログラムを用意しました。大変お忙しい中とは存じますが，新年度の授業準備に向けて是非この機会をご利用下さい。

【対　象】　全教職員（非常勤を含む）・TA

【主　催】　教務委員会

【企画・運営】　評価・FD 教育改善専門部会

１．「アクティブラーニングをいかに工夫するかーモジュールⅠ科目の挑戦」

【日　時】　平成 25 年３月７日（木）15:45～18:00

【場　所】　教育学部 21 番教室（分科会 A）・22 番教室（分科会 B）

【内　容】
　昨秋からスタートした全学モジュール科目では，アクティブラーニングを積極的に導入する試みがなされています。この事例報告では，分科会 A（自然科学系・生命科学系）・分科会 B（社会科学系・生命科学系）でそれぞれ 4 名の授業者から苦労した点・失敗した点も含めてざっくばらんに話題提供していただき，来年度の授業に向けて一緒に工夫を考え合う機会にしていただくことを願っています。

＜分科会 A の報告者と科目名（敬称略）＞
山田博俊（工）「環境・生活と化学」
岩田修永（薬）「生命の化学（ケミカルバイオロジー）」
根本孝幸（歯）「ヒトの生物学」
上繁義史（情メ）「情報社会の安全と安心」

＜分科会Ｂの報告者と科目名（敬称略）＞

深浦厚之（経）「経済政策と公共部門」

村田潤（保）「ハンディキャップ」

波佐間逸博（国連）「コミュニケーションの比較文化」

橋本健夫（大教）「マスメディアと表現」

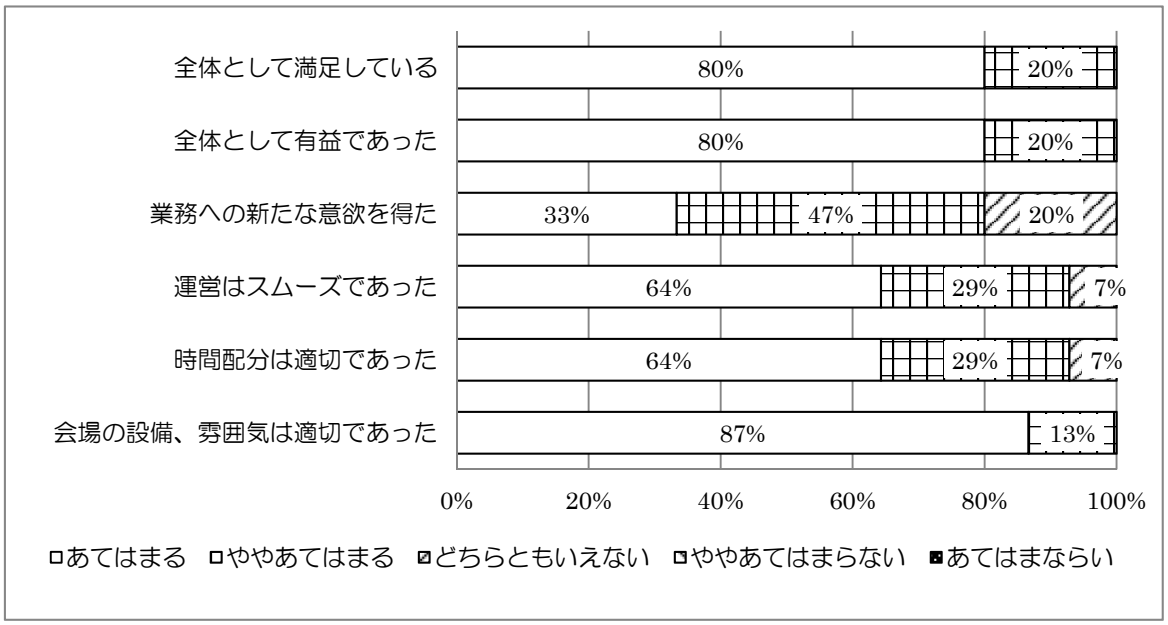
分科会Ａ

【参加者】

１５名（受講証発行対象者：１５名）

所　　属	人　数
医歯薬学総合研究科（医系）	２
医歯薬学総合研究科（歯系）	２
医歯薬学総合研究科（薬系）	１
工学研究科	３
水産・環境科学総合研究科（環境）	２
水産・環境科学総合研究科（水産）	１
先導生命科学研究支援センター	１
情報メディア基盤センター	３
計	15

【参加者からの評価】



○ 参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- みなさんの努力、取り組みが参考になった。
- 勉強になりました。
- 他の教員の取り組みが聞けて大変参考になった。
- 皆さんの苦労がよく分かりました。大変参考になりました。
- 自分の授業をブラッシュアップしていくための有益な情報をいただきました。
- 同様の報告を引き続き企画して欲しい。
- 初年度の経験は、色々と情報共有する必要があるので、もう少し多くの教員に参加してもらうとよい。
- このような具体例を知ることが重要と思うので、もっと宣伝してほしい。まだ、モジュールのことを理解していない教官が多数いることを認識してほしい。
- 今回出席されている先生は大変努力していることがわかった。教養教育の負担は大きい。

○ 内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入下さい。

- 各講演の後の議論の時間をふやした方がよい。
- もうすこし時間が欲しかった。４人→3 人でもよいのでは。（１人 30 分で）

○ 今後、ＦＤ・ＳＤのテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入ください。

- WebClass、e-ラーニングをスマートフォンでいかに活用するか？あまり使われていない WebClass の使い方。

【総　括】

自然科学系担当教員として、山田博俊（工）、岩田修永（薬）、根本孝幸（歯）、上繁義史（情メ）の各教員に実施事例を発表していただき、参加者との討論が行われた。司会進行は情報メディア基盤センターの丹羽教授が務めた。山田教員は、専門である化学に関する英語の教科書と訳本を高等学校での履修状況に応じて指定し、その各項目についてアクティブラーニングを実践した取り組みを、岩田教員は、生命科学と薬について、根本教員は生命科学と健康について Web Class やクリッカー等を活用しながらアクティブラーニングを実践した取り組みを、上繁教員は、情報社会とコンピューティングについて電子書籍の貸し出しによる資料活用や携帯電話を利用した出席管理等を活用したアクティブラーニングの取り組みについて発表した。

総合討論では、多くの質問がでたが、主なものは下記の通り。

・いずれの取り組みもプレゼンテーションをさせ、それを評価に入れているが、プレゼンテーションスキルを大学で教えていない状況で評価に取り入れてよいか。

・授業時間外での準備が必要な授業となっているが、学生に貢献度を申告させる授業では、正確に確認できているのか不安である。

発表者も参加者も、ともに試行錯誤の状況のようでもあったが、今後の授業改善の熱意と意欲が強く感じられる有意義な FD であった。

（文責　池田 通）

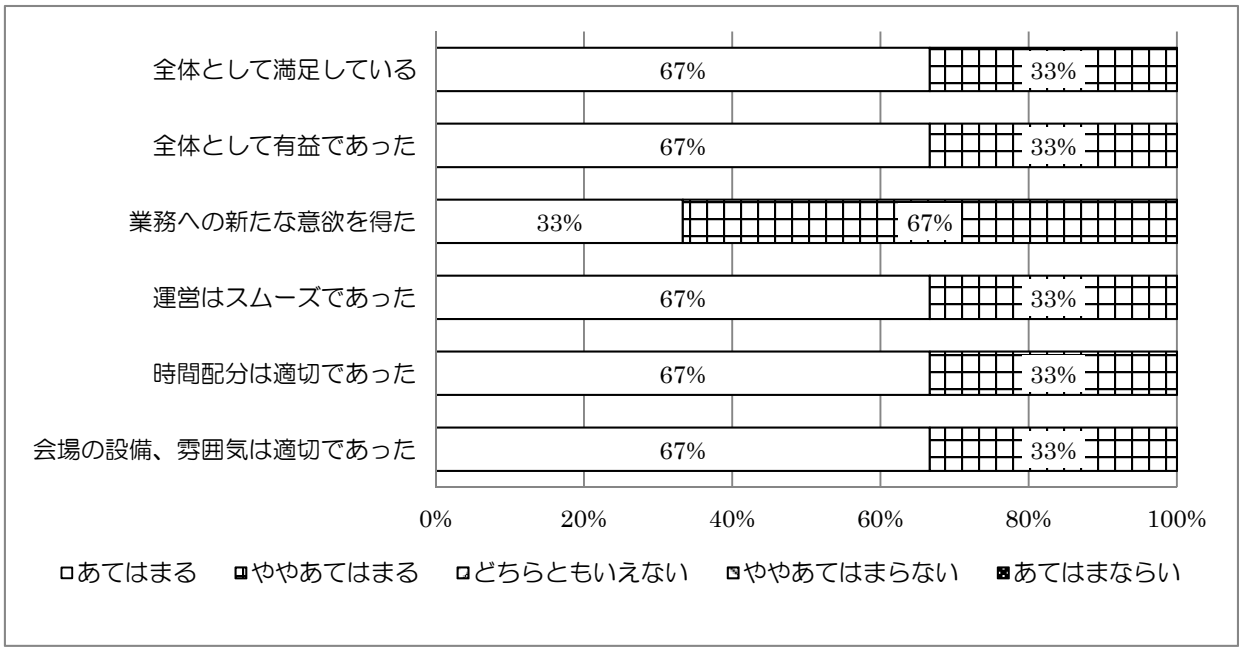
分科会Ｂ

【参加者】

９名（受講証発行対象者：９名）

所　　属	人　数
経済学部	4
医歯薬学総合研究科（保系）	2
工学研究科	1
水産・環境科学総合研究科（環境）	2
計	9

【参加者からの評価】（回答者：３名）



【総　括】

事例報告では、アクティブ・ラーニングを中心に工夫を凝らした事例が紹介された。クリティカル・リーディングを試行した事例も１例報告された。授業に取りあげたテーマもバラエティに富んだものであり、また、質問に対する答えやディスカッションによる発言を引き出すための工夫が紹介された。受講生数人ごとに班を作る、問題を提示して受講者に順に当てる、さらに当てる順番を暗示して発言する覚悟を決めさせるなどのアイデアが紹介され、その成果も詳しく報告された。民族の習慣を授業の題材とするなど、テーマそのものが興味をそそる授業では、比較的多くの発言が引き出せたようである。

会場からは、報告者に対して、受講生に答えさせる方法についての質問が多かった。ただ、今回の各報告からは、受講者の発言を引き出す決定的な方法はなかなか見いだせないということも示唆され、この点は今後の課題として残された。　　（文責　大内 和直）

２.「クリッカー活用法・・・Ａ（入門編）・Ｂ（応用編）」

【日　時】　平成 25 年３月 21 日（木）
　　Ａ（入門編）13:30～15:00、Ｂ（応用編）15:30～17:00

【場　所】　教育学部 41 番教室

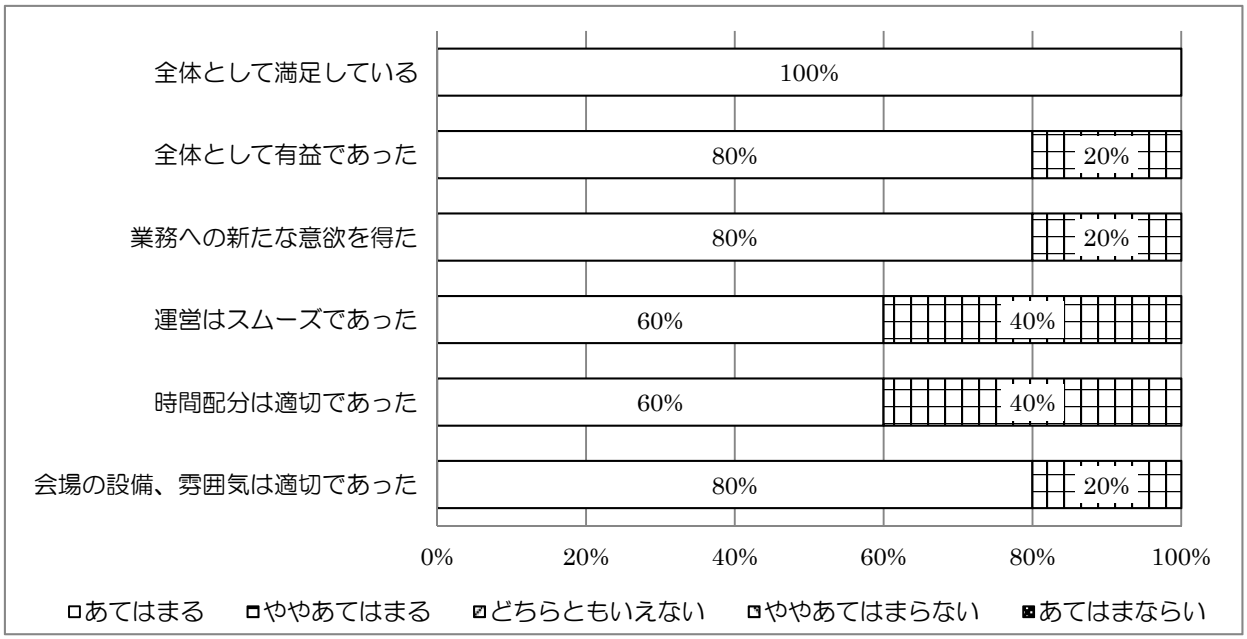
【内　容】
　教養教育用に貸し出している専用機型クリッカーシステム（TurningPoint）の使い方の研修です。学生の参加度や意欲を高め，学修成果につながる授業を工夫してこられた講師より，クリッカーの有効な活用法を紹介していただきます。入門編では，クリッカーを実際に活用する際の事前準備から後処理までを順次習得することができます。応用編では，クリッカー使用上の疑問点や悩みなどを出し合い，解決を工夫するとともにさらに効果的な活用法を習得することができます。

【講　師】　末本哲雄氏（大分大学高等教育開発センター・講師）

<u>Ａ 入門編</u>
【参加者】
６名（受講証発行対象者：６名）

所　　属	人　　数
経済学部	２
医歯薬学総合研究科（薬系）	１
工学研究科	１
病院	１
産学官連携戦略本部	１
計	６

【参加者からの評価】（回答者：５名）



○ 今後、ＦＤ・ＳＤのテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入ください。

・ 実際に講義で活用することで様々な疑問が生じることが予想されますので、学期中にも類似の FD を開催して頂ければ大変助かります。

【総　括】

第２回クリッカー講習会が、大分大学高等教育開発センターの末本哲雄講師を招いて行なわれた。はじめに、クリッカーの使用方法や使用例が紹介された。続いて、自分のパソコンに駆動ソフトをインストールして実際に動かす使用体験を行なった。成果は期待どおりで、受講者が短時間にほぼ十分に利用できるようになっていた。講師が工夫を凝らした、流れるような講習を行なったためか、会場からの質問はあまりなかった。ただ、ソフトのインストールに意外に時間がかかることが想定外であった。

講習会の最後に、講師から付言があった。数年前、クリッカーの使用そのものが注目を集めた。今は一歩進んで、クリッカーの使用により授業にどのようなメリットをもたらすのかを考えることが重要である、というものである。　　（文責　大内 和直）

B 応用編

【参加者】１名（受講証発行対象者：１名）

【参加者からの評価】

全体として満足している・・・・・・・　ややあてはまる
全体として有益であった・・・・・・・　ややあてはまる
業務への新たな意欲を得た・・・・・・　ややあてはまる
運営はスムーズであった・・・・・・・　どちらともいえない
時間配分は適切であった・・・・・・・　ややあてはまる
会場の設備、雰囲気は適切であった・・　ややあてはまる

【総　括】

本研修は、複数の部局でクリッカーの活用が進むようになってきた今日、実際に使ってみての課題や工夫を共有し､より効果的な活用方法を学ぶために企画された｡しかし、日程的な問題のためか、わずか１名の参加となったことはきわめて残念である。にもかかわらず、その参加者に対して講師はマンツーマンで初歩的な事柄から応用的な事柄まで丁寧に指導して下さり、この点は感謝に堪えない。今後は、企画の際にスケジューリングその他により目を配るとともに、学内でのクリッカー経験者が核となって各部局でのクリッカー活用を支えていけるようになることが望ましい。

（文責　山地 弘起）

３.「グループワークを充実させるコツ」

【日　時】　平成 25 年３月 26 日（火）13:30～17:00

【場　所】　新棟５番教室

【内　容】

授業でグループワークを行っても，学生たちが十分集中していなかったり意見交換が深められていなかったりすることがあります。そういう時，どのような働きかけが有効でしょうか？また，そもそもグループワークが活性化するにはどのような条件が必要でしょうか？この研修では，会議ファシリテーションの第一人者である講師より，グループワーク充実に向けてすぐに使える重要ポイントを体験的に習得することができます。

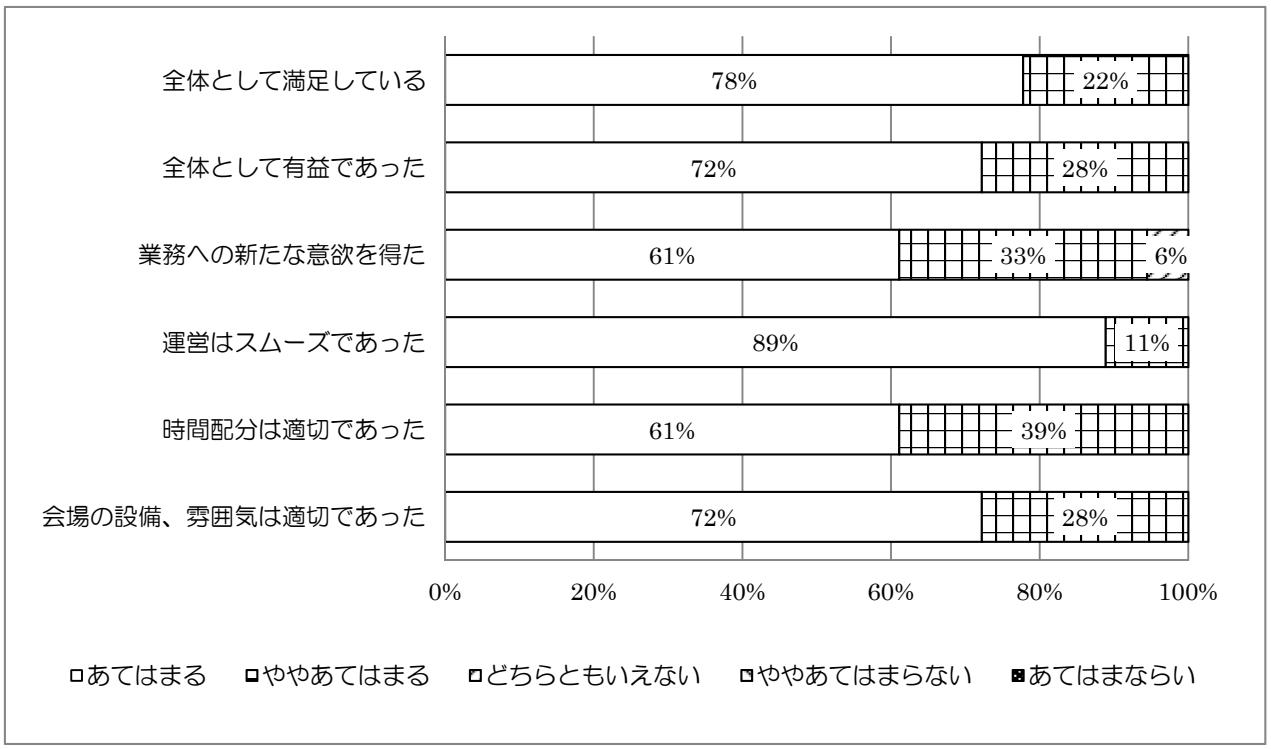
【講　師】　釘山健一氏（会議ファシリテーター普及協会・代表）

【参加者】

１９名（受講証発行対象者：１８名）

所　　属	人　　数
経済学部	2
医歯薬学総合研究科（保系）	3
医歯薬学総合研究科（薬系）	1
工学研究科	3
水産・環境科学総合研究科（環境）	3
水産・環境科学総合研究科（水産）	1
病院	1
保健・医療推進センター	1
先導生命科学研究支援センター	1
情報メディア基盤センター	1
留学生センター	1
計	18

【参加者からの評価】



○ 今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

・ 学生の GW と会社の会議でファシリテーターの役割や極意は変わらないと実感。学生の場合、動かない、話し出さないことが多いので、そこはもう少し聞きたい。
・ もっと長い時間があると、すべて取り組めたと思う。受講機会を再度設けるとよいと思う。
・ グループワークのケースが出されるとよかったと思う。しかし、今回はそれがなくても十分意義があった。
・ 今までのファシリと全然違う!! 目からウロコでした。これから会議等をもつ時には、是非参考にして取り入れたい。もう一度呼んでください。もっとじっくり聴きたい。
・ 講師の先生がおもしろかった。話がうまい。ためになった。時間通りきちんと終わるのは、さすがプロである。続きが聞きたい。是非よんでほしい。
・ 参加型 FD は有意義と思う。しかし自分の意見発表は苦手でもあるが本日は完全参加型であった。聞くだけは 20%も残らないのは日々感じているので身体を動かすことの意味は大きいと思う。是非後編も開催して欲しい。子ども達を対象とした参加型プログラムを行う際は拍手をとり入れていたが本日も同じようなことをやっていて意味あることだと再確認できた。
・ 楽しかったです。ゼミなどで活用したいことをたくさん学べました。ありがとうございました。次回にもっと深いところを学べることを期待しています。
・ 講義でよく直面する問題は、問いかけや質問に対して生徒が下を向いてしまうことです

が、この場合、どのように盛り上げていけばいいのか、どのようにグループワークを活性化すべきなのか示して頂ければ助かります。

- ”目からウロコ”自分が今まで良いと思ってやってきたことがすべて”バツ”だったことがわかって、びっくり。退職する前に聞けてよかったと思う。
- 非常に斬新な教育方法だと思いました。大変参考になりました。
- 勉強になった。活用したいが、会議の種類によっては、このような方法が難しいものもあるのでは。
- これまでの固定した考え方を見直すよい機会になった。
- ファシリテーションの切り口と使いかたについて、よくわかったと感じました。
- 今日は参加者が少なかったので、もう１回呼ぶといいのではないかと思う。
- 講義、ミーティング等、さまざまな場面で活用したい。モチベーションの低い学生をいかに主体的にさせるか、悩ましい。もっと多くの教職員にも聴講してもらいたいと思う。
- 授業を進める上でも参考になる話がたくさん聞けてよかった。
- 本来、学生も気楽に参加できるよう、方法を考えるべきであったが、おそらく学生側の視点からして、長すぎたことが参加者がいなかったことにつながったかも知れない。しかし、それ以上に、本当に TA を行う際の極意とはどのようなものかということを、身をもって体験でき、復習できる絶好の機会であったので、多くの人に教えたいと思った。（学生（ＴＡ希望者））

○ 内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入下さい。

- 時間をもっととっても良いかと思う。大学の委員会の委員長などが是非出席すべき FD と思う。
- 休憩時間がもう少しほしかった。
- 人数的にもよかったのではないか（１G4 名）学生の特徴をふまえた Q&A がほしい。
- 参加者が少ないのが残念でした。もう少し増やすための取り組みをするとよいと思います。
- 会議が実際に進行している様子が見られるサンプル DVD 等があれば大変助かります。
- 場所（会場）がわかりにくい。参加者のドタキャンが残念だが、実施時期の再検討につながる。
- メールで知って Web 申込したが、場所（新棟）とか書かれても他学部の人間には分かりにくい。
- 学内での FD の告知がもう少し早い方がよいのではないか。
- 案内を受けても、つい忘れることもあり、何回か知らせてほしいです。あるいは、他の方法で。
- 学生ももっと来るような方法があれば、なおさら良いと思う。（学生（ＴＡ希望者））

○ 今後、ＦＤ・ＳＤのテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入ください。

・ 「リーダーシップ」について聞きたい。外国人も増えてきているので外国人とともにつくる会議や何かについてのコツが知りたい。
・ これからも良い FD・SD を継続して下さい。
・ 学期中に開催して頂けると有意義だと思います。
・ 今回のように実践に役立つ企画をおねがいします。ぜひ、後編（中級、上級）を受講したいです。
・ TA を含めて、何か企画できないでしょうか。
・ 本日の午前の配布資料に名前の出ている木野茂さんを講師に呼んではどうか。（私が著者と通じて知っている木野さんと同姓同名の別人かもしれないが）

【総　括】

とても興味深い機会だったと感じた。講師の講義展開方法が、今回の主題を実行するための手法で構成されていたこと（という「振り返り」ができるようになったこと自体が受講成果である）と、グループ内での意見出しと意見集約への働きかけをコントロールする指示や雰囲気作りが示唆に富んだことが、とても印象的だった。

授業を受ける学生にとって、発案・アイディア出し・意見のとりまとめといった類の作業は、他者と同席する場では苦手意識を持つ最たる要素であると思うのだが、今回の講習に参加してみて、（学生にとって）苦手意識が伴う作業の場での意見表明をどう引き出すか、それをどう生かすかについても、授業の現場に応用できるところを見つけたと思う。

今回の企画は「受講生のやる気を引き出し、理解を促す」ための授業方法を探すにはとても良い機会だったと思うが、「もともとやる気がないのに受講している」といった学生を授業に引き込むにはどうすれば良いかといった事例を前提にした別の機会への参加を組み合わせることができれば、FD の成果もさらに期待できるだろう。

（文責　亀田 和彦）